

## 8 . 河道特性

富士川流域における河道特性は以下に示すとおりである。

### (1) 釜無川（清水端上流）

釜無川は南アルプスの山々が連なる山岳部から流下し、南八ヶ岳の裾野に横たわる峡谷を通り、甲府盆地に流れ込んでいる。山岳区間では、南アルプス国立公園を含む自然豊かな溪流景観を呈し、甲府盆地内では扇状地性の沖積平野を形成する平地河川となっている。

河道内では、多列砂洲を形成しており、高水敷の砂礫河原にヤナギやハリエンジュ林が発達している。また、急流河川であることから局所洗掘を生じる他、崩壊土砂の堆積によって天井川を形成している。

河床勾配は1/100～1/700程度、河床材料は40～270mm程度の砂礫となっている。

### (2) 笛吹川

笛吹川は、上流部では秩父多摩甲斐国立公園内の山間溪流の様相をなし、平地部では石和・山梨の市街地及び田園地帯を流下し、富士川に合流している。河道内には砂礫地が少なく、ヨシ原やヤナギの河畔林が広がっている。河床勾配は上流は概ね1/300以上と急勾配であるが、平地では1/1,100程度と緩く、河床材料も上流では50～190mm程度の砂礫、平地では概ね2mm未満の砂・シルトとなっている。

### (3) 中流部（禹之瀬～雁堤）

禹之瀬から雁堤までは、甲府盆地下流部の峡南地域にあたる。沿川は富士山の西北にかけて連なる天守山地と南西側の身延山地が連なり、富士川はその狭窄部で蛇行を繰り返しながら流れ下っている。

中流部は山付き区間が多く、河道内には広い砂礫地が広がっている。

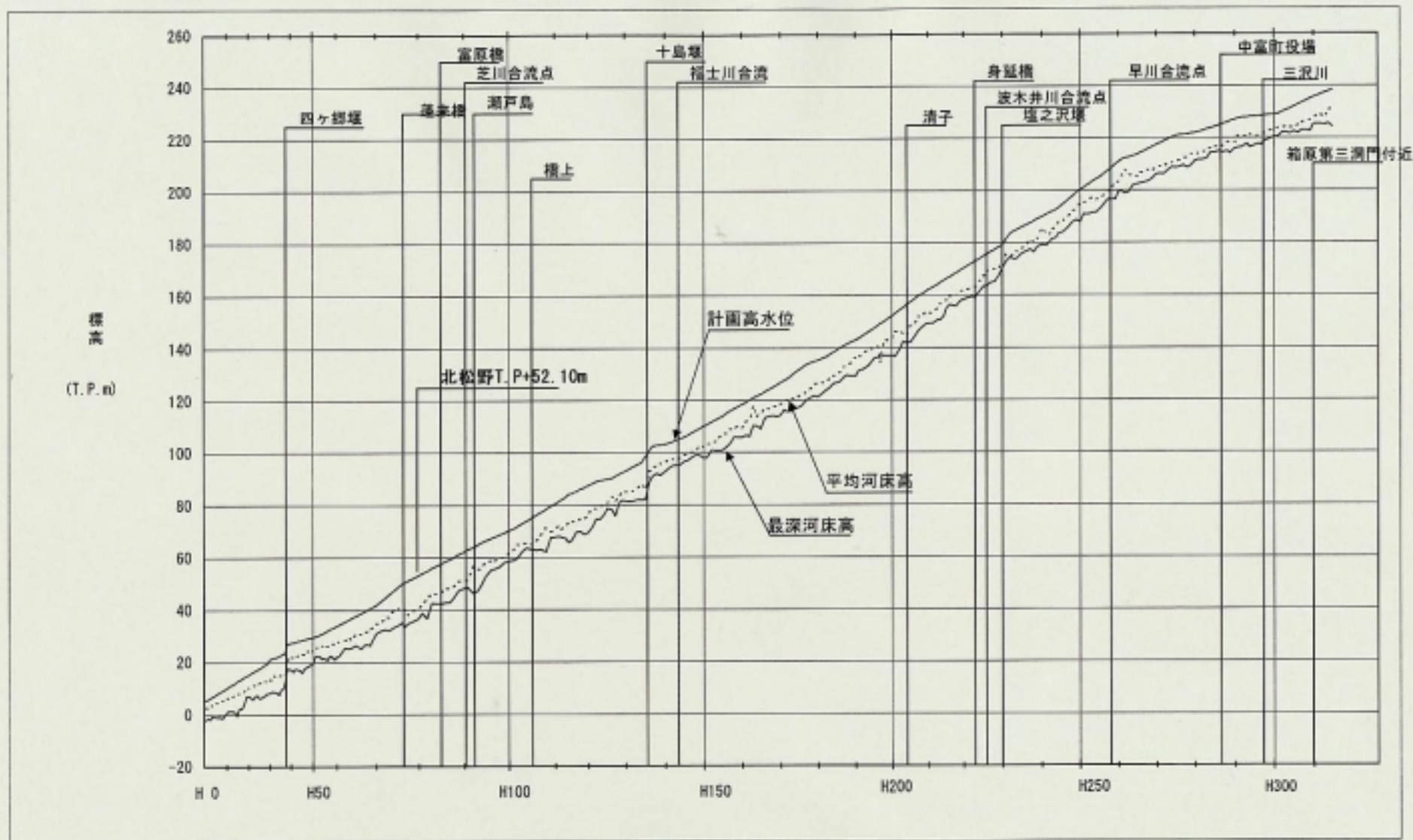
河床勾配は1/200～1/400程度、河床材料は30～210mm程度の砂礫となっている。

### (4) 下流部（雁堤～河口）

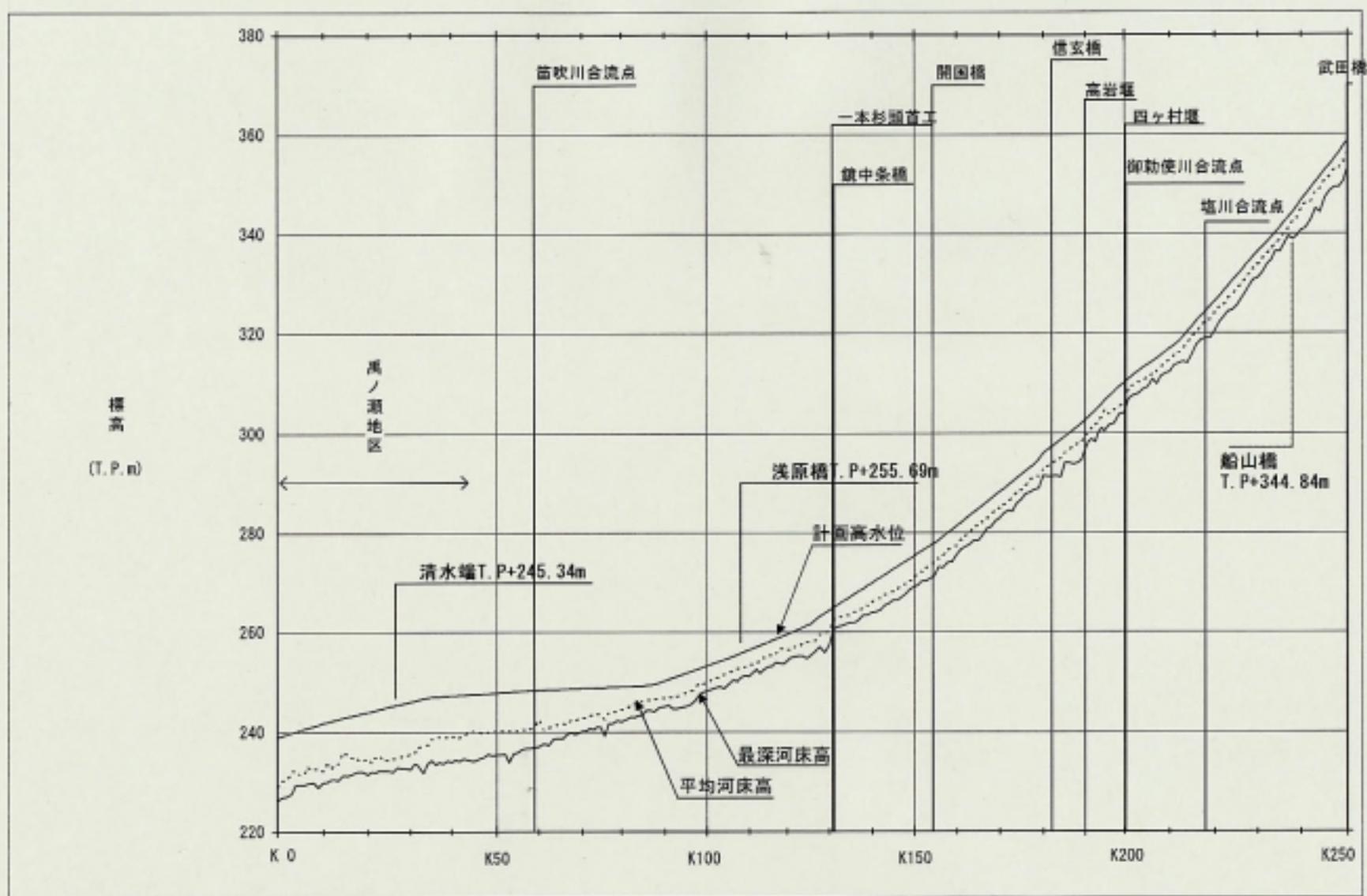
雁堤から河口においては、富士山西南の山麓が駿河湾に向かって広がっており、富士川の河口部は扇状地で天井川を形成している。

急流河川の河口部であるため、河口の割には水面幅は狭いが、河道内には広大な高水敷が形成されており、運動場や公園緑地、砂礫河原が広がっている。また、周辺は有名な探鳥地であり、堤内地は住宅地や工場となっている。

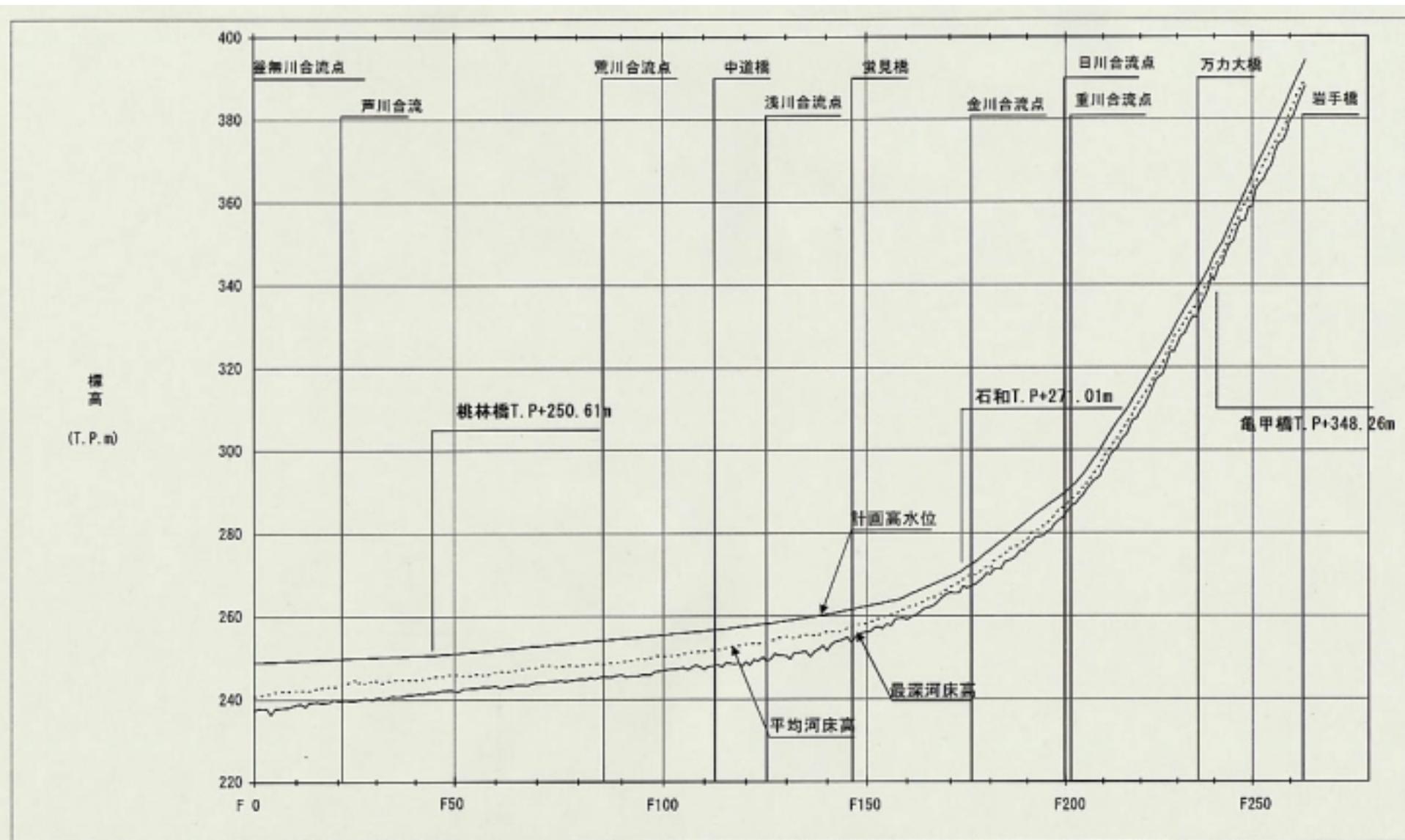
河床勾配は1/300～1/400程度、河床材料は50～180mm程度の砂礫となっている。



計画高水位	4.95	29.69	70.20	110.04	152.16	200.21	228.96
平均河床高	1.99	24.35	61.51	102.27	144.04	194.41	223.20
最深河床高	-2.64	19.57	58.46	97.86	137.03	188.00	220.26
追加距離	0	5569	15612	25592	35192	44798	54693
距離標	H0	H50	H100	H150	H200	H250	H300



計画高水位	238.91	247.83	253.18	275.31	310.13	358.94
平均河床高	229.13	240.06	249.94	271.16	306.30	356.32
最深河床高	226.33	235.41	248.14	269.03	304.03	353.53
追加距離	57868	63461	68811	74094	79422	85106
距離標	K0	K50	K100	K150	K200	K250



計画高水位	248.88	251.03	255.53	262.40	289.99	366.21
平均河床高	240.81	245.93	250.34	258.35	286.46	362.76
最深河床高	237.27	241.95	246.95	256.15	284.72	358.88
追加距離	0	5403	11020	16508	21861	26876
距離標	F0	F50	F100	F150	F200	F250



< 上流 >

富士川（釜無川）

信玄堤・高岩付近(K-175付近)



笛吹川

根津橋上流万力林付近(F-230付近)



富士川（釜無川）

笛吹川合流点付近（K-80付近）

（出典：「空から見た富士川」

甲府工事事務所パンフレット）

< 中流 >

富士川

狭窄部禹之瀬付近(K-20付近)



富士川

早川合流点付近 (H-255付近)

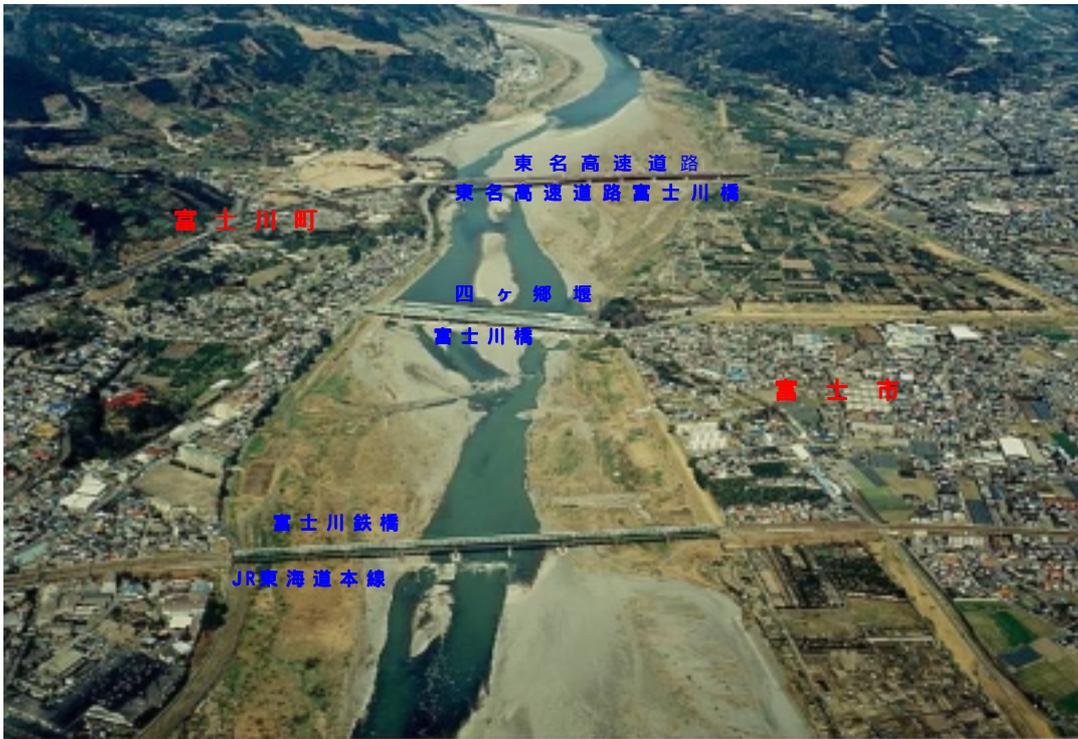


(出典：「空から見た富士川」甲府工事事務所パンフレット)

< 下流 >

富士川

雁堤を望む富士川橋付近(H-35付近)



富士川

駿河湾に注ぐ河口部



(出典:「空から見た富士川」甲府工事事務所パンフレット)